

令和7年度卒業式 学長告辞

寒暖差がとりわけ厳しかった冬もようやく終わり、キャンパスのあちらこちらで、春本番を思わせる生命の営みを感じることができるようになり、新たなステージに期待感を抱く季節が到来しています。

本日、晴れて、卒業ならびに修了の日を迎えた皆さん、卒業・修了を心からお祝いを申し上げます。今日まで皆さんを支えてこられたご家族の皆様も喜んでおられると思います。

皆さんの新たな門出にあたり、愛知教育大学を代表して、祝福の言葉を述べさせていただきます。

まず、本学は2023年に、前身である1873年創立の「愛知県養成学校」から数え創基150周年を迎えました。1949年に三つの師範学校を統合し、愛知学芸大学になってからも約7万人もの教員を輩出し、愛知・名古屋の教育の中核を担ってきました。私は、県内各市町村の教育長様と懇談する機会がたびたびありますが、どなたも「愛教大卒の先生方は子どもに寄り添うことができ、優秀で期待している」と述べられます。このような歴史と伝統のある本学を卒業・修了することを誇りに思ってください。

教員養成課程は、皆さんが入学した1年前2021年度より、課程の改組を行いました。14専修からなる「義務教育専攻」と5専修からなる「高等学校教育専攻」を新たに立ち上げ、幼児教育専攻、特別支援教育専攻、養護教育専攻の5専攻からなる「学校教員養成課程」としました。教員就職者数は5年連続全国1位、500人越えは本学だけです。教員就職率も私が学長に就任した5年前と比べると10%ほど上昇し、トップ10に入っています。皆さんの頑張りだと思います。

2017年度に設置した「教育支援専門職養成課程」は、皆さんが6回目の卒業生となります。充実した半面、課題も明らかになってきていますので、改善を図っていききたいと思います。学生参加のFD・SD集会でも、施設面や学校教員養成課程の学生との交流の機会の少なさも指摘されてきました。せっかく両課程が一つの大学にあるのですから、学生時代から「チーム学校」体制が構築できるような新たな科目群「未来共創科目」を立ち上げ、来年度入学生から実施します。この科目では、3年次までに形成してきた知識、経験、学識、能力を統合・発展させ、専門分野を超えて現代的教育課題を学び合うことで、自律的に専門性を高める姿勢を育成するとともに得意分野をもった多様な教員を輩出することを目指していききたいと思います。

教職大学院及び修士課程の臨床心理学コース、日本型教育グローバルコース及び教育ガバナンスコースを修了される皆さんは、本学の卒業生は割と少なく、様々な大学を卒業された方々や附属学校の教員を含む現職教員の皆様、留学生の方々が、新たな風を吹き込み切磋琢磨できたと思います。今後も指導いただいた先生方とのつながりを大切に、機会があればぜひ博士の学位の取得も考えてください。

博士課程を修了され、5名の方が博士の学位を取得されました。仕事をもちながら研究を深められたことに敬意を表すると共に、今後それぞれの研究分野において中核になって活躍されることを期待しています。

特別専攻科を修了される皆さんは、特別支援教育に貢献したいという思いで入学し、研鑽を重ねられ修

了されたことと思います。愛知県教育委員会事務局の担当の方より、子どもの数の減少で、普通学級数は激減しているが、特別支援学級数は、増え続けていると伺いました。一つの学校に5学級も特別支援学級があることもしばしばあるようです。このように学校現場では特別支援教育の担い手のニーズは、一層高まっていますので、皆さんの活躍を期待しています。

1年ほど前の2025年2月21日に、中央教育審議会は、「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」と題した答申を発表しました。直面する課題の中に、大学進学者数の激減を挙げています。学部の皆さんが入学したころは約63万人でしたが、2040年に46万人になるということです。約27%減となります。4分の1以上減ってしまう訳です。そこで、タイトルある「知の総和」という概念を設定しています。

「知の総和」とは、「数」×(かける)「能力」としています。「数」とは人数です。これが激減し、「知の総和」を保つにはどうすればよいでしょうか。もう一つの変数である「能力」を高める必要があるとしています。学生個々の能力です。目指す未来像を「一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ(well-being)の実現を核とした持続可能な活力のある社会」、育成する人材像を「持続可能な活力のある社会の担い手や創り手として、真に人が果たすべきことを果たせる力を備え、人々と協働しながら、課題を発見し解決に導く、学び続ける人材」としています。皆さんは、学部課程や大学院課程を修了した訳ですので、この人材像に近づいていると思いますが、今後も研鑽し持続可能な活力ある社会の担い手・創り手としての活躍を期待しています。

さて、ウクライナ及び中東地域では、戦火が広がり、国際情勢は厳しさを増しています。多くの子どもたちが犠牲になったり、家族と離れ離れになったりしている現状には、心が痛みます。また、皆さんの周りには、多様な環境におかれた人々がいます。このような状況を常に心のどこかに留め、自分ができること、配慮しなければならないことを考え、夢に向かって邁進してほしいと思います。

一方、今年秋には愛知・名古屋で、第20回アジア競技大会と第5回アジアパラ競技大会が開催されます。前回の中国の杭州大会には、45の国や地域の参加がありました。日本では東京、広島に次いで約30年ぶり3回目の開催となります。日本の人口は、今後少子化が進み激減していきます。一方、外国からは毎年16万人の移住が推計されています。したがって、これからの社会は、多様な人々との連携が不可欠となります。アジア諸国から多くの皆さんが日本を訪れる機会であり、互いを理解し平和な世界を築き上げる上で、一つの礎になると考えますので、積極的な交流を心掛けてほしいと思います。

本学の目指す姿をキャッチフレーズとして「子どもの声が聞こえるキャンパス、地域から頼られる大学」と表し、その具現化のために2021年3月に策定した三つの目標と九つの戦略からなる「未来共創プラン」については、学部入学時の「初年次演習」の初回で私が説明しましたが、覚えていますか。私たちは、関係者との共創により、子ども一人一人の可能性を開花させ、未来へつなげるための資質・能力を備えた教師や教育を支える専門職の養成、地域の課題解決や現職教員等に充実した研修の場を提供できる新しい時代の教育大学を目指しています。その一つが、このプランの戦略1「子どもキャンパスプロジェクト」です。学生や教職員等で、子どもが楽しみながら学べる機会をより多く提供し、多様な可能性を秘めた子どもの素晴らしさをみんなで実感したいという思いで実施しています。最近では8月と11月に実施している「あつまれ!子どもキャンパス」は、企画数が毎年増え充実してきました。年間で7,000人を超える子ども、保護者、引率の先生らが

来場しています。卒業生の皆様にも協力をしていただいたことに感謝をしています。この経験は、きっと今後役立つと思います。

最後に、4月から教職に就く皆さんは、一人一人の子どものよさに目を向けることを心がけてください。今回は別の道に進む皆さんもほかの職業等での成長を、ぜひ将来、学校教育に活かしてください。教職を支える専門職に就く人は、教員と協働して未来の教育を担ってほしいと思います。

皆さんは、卒業・修了されると私と同様、本学の同窓生となります。どうかここを巣立った後も、本学ならびに同窓会の活動も支えてください。本学での学びを礎に、健康に留意され、教育の未来を共創していく皆さんの可能性に期待して、卒業・修了にあたっての告辞といたします。

令和8年3月23日

愛知教育大学長

野田 敦敬